

Sweet & Sweet

スィート&スィート STB

年金総額保証型特別勘定年金特約付変額個人年金保険 (2005)

STB

Sweet & Sweet

スィート&スィート STB

変額個人年金保険 (2005)

STB

Sweet & Sweet

スィート&スィート STB

保証金額付特別勘定終身年金特約付変額個人年金保険 (2005)

LGシリーズ

STB

Sweet & Sweet

スィート&スィート STB

年金総額保証型特別勘定年金特約付変額個人年金保険 (2005)

AGシリーズ

STB

特別勘定運用レポート

(組入投資信託の運用状況)

特別勘定の名称	投資信託の名称	投資信託の運用会社	ページ
バランス A(25)	バランス A(25)VA1	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	1
バランス D(35)	バランス D(35)VA1		2
バランス B(37.5)	バランス B(37.5)VA1		3
バランス C(50)	バランス C(50)VA1		4
マザーファンドの状況			5

特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって

当資料をご覧ください際にご留意いただきたい事項

- ・当資料は既に当商品にご加入されたご契約者に対し、三井住友海上プライマリー生命のスイート&スイートSTB〔年金総額保証型特別勘定年金特約付変額個人年金保険（2005）〕、スイート&スイートSTB〔変額個人年金保険（2005）〕、スイート&スイートSTB LGシリーズ〔変額個人年金保険（2005）＜保証金額付特別勘定終身年金特約／加算年金1年更新特則付特別勘定終身年金特約（07）＞〕、スイート&スイートSTB AGシリーズ〔年金総額保証型特別勘定年金特約付変額個人年金保険（2005）〕の特別勘定および特別勘定が主たる投資対象とする投資信託の運用状況を開示するためのものです。なお、商品の詳細につきましては、商品パンフレット、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をご覧ください。
- ・当資料に記載されている運用実績等に関する情報は過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、〔組入投資信託の運用状況〕に記載されているコメント等は当資料作成時点の見解に基づくものであり、予告なく変更されることがあります。
- ・〔組入投資信託の運用状況〕は、運用会社が作成する運用報告を三井住友海上プライマリー生命が参考情報としてそのまま提供するものであり、内容に関しては、三井住友海上プライマリー生命の責めによるものを除き、三井住友海上プライマリー生命は一切の責任を負いません。

この保険商品についてご確認ください事項

■市場リスクについて

この保険は、払込みいただいた保険料を投資信託等を投資対象としている特別勘定で運用し、その運用実績に基づいて将来の死亡保険金額、解約払戻金額、および年金額等が変動（増減）するしくみの生命保険商品です。特別勘定の資産は、主に国内外の株式・債券等に投資する投資信託を通じて運用されるため、株価や債券価格の下落、為替の変動等により、解約払戻金等のお受取りになる合計額が払込まれた保険料を下回る可能性があり、損失が生じるおそれがあります。これらの特別勘定の運用に伴うリスクはすべてご契約者に帰属します。

■ご負担いただく費用について

この保険では、契約初期費用、保険関係費および資産運用関係費等をご負担いただきます。また、一定期間内にご契約を解約・一部解約する場合には、所定の解約控除がかかります。詳しくは次ページ「諸費用について」をご参照ください。

■その他

- ・変額個人年金保険は特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、ご契約者が投資信託を直接保有するものではありません。
- ・特別勘定のユニットプライスの値動きは、特別勘定が投資対象とする投資信託の値動きと必ずしも一致しません。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有することがあることや、ユニットプライスの計算に当たり保険関係費等の費用を控除すること等によるものです。

特にご注意いただきたい事項

年金総額保証型特別勘定年金特約をご選択された場合、年金受取総額の最低保証は、年金総額保証型特別勘定年金の受取期間満了を迎えることにより保証されますので、年金受取開始時や年金受取期間中に一括受取や一般勘定で運用する年金種類に変更した場合には、年金受取総額の最低保証はありません。

諸費用について

この保険の費用の合計は、以下の費用の合計額となります。

ご契約時にご負担いただく費用

項 目	目 的	費 用	時 期
契約初期費用	当保険契約の締結などに必要な費用	一時払保険料の 3%	特別勘定への繰入前に、 一時払保険料から控除します。



増額した場合にも、契約初期費用として増額保険料の 3%が控除されます。

ご注意

特別勘定での運用期間中にご負担いただく費用

1. すべてのご契約者にご負担いただく費用

下記の費用を控除した上で、ユニットプライスは計算されます。

項 目	目 的	費 用	時 期
保険関係費	当保険契約の締結および維持などに必要な費用ならびに死亡保険金・災害死亡保険金等を支払うための費用	保証金額付特別勘定終身年金特約 または年金総額保証型特別勘定年金特約 を付加した場合 積立金額に対して年率 2.30%*1	積立金額に対して左記の年率の 1/365 を乗じた金額を毎日控除します。
		特別勘定終身年金特約（07） を付加した場合 積立金額に対して年率 2.90%*2	
資産運用 関係費	投資信託の信託報酬など、特別勘定の 運用にかかわる費用	全ての特別勘定共通 年率 0.352%程度*3 (消費税込)	各特別勘定の資産残高に対して左記の 年率の 1/365 を乗じた金額を毎日控 除します。

- * 1 保証金額付特別勘定終身年金特約または年金総額保証型特別勘定年金特約の費用（積立金額に対してそれぞれ年率 0.8%）を含みます。
- * 2 特別勘定終身年金特約（07）の費用（積立金額に対して年率 1.4%）を含みます。
- * 3 投資信託とそのマザーファンドにおいて有価証券の貸付の指図を行った場合は、投資信託の品貸料およびマザーファンドの品貸料のうち投資信託の信託財産に属するとみなした額に50%未満の率を乗じて得た額を信託報酬として、各特別勘定の資産残高から控除します。
・品貸料は投資信託の収益として計上され、その一部を信託報酬として受取るものです。



・資産運用関係費は信託報酬を記載しています。この他、信託財産留保額、有価証券の売買手数料、運用関連の税金、監査費用等がかかる場合がありますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。これらの費用は特別勘定がその保有資産から負担するため、特別勘定のユニットプライスに反映されることとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

・資産運用関係費は、運用手法の変更、運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

2. 下記のお取扱いの場合に別途ご負担いただく費用

特別勘定のユニットプライスを計算した後に特定の契約者にご負担いただきます。

項 目	費 用		時 期
積立金 移転手数料	1 保険年度に 15 回目までは無料	1 保険年度 16 回目以後の 移転について 2,500 円/回	移転時に積立金から控除します。
解約控除	解約するとき	経過年数に応じて、 払込保険料総額に対して 1～4%	解約時・一部解約時に積立金から控除します。
	一部解約するとき	経過年数に応じて、 一部解約請求金額に対して 1～4%	

- ※ 一部解約請求金額が払込保険料総額を上回る場合には、解約控除対象額は払込保険料総額を上限とします。一部解約の際に解約控除対象額として取扱われた金額については、以後の解約控除対象額の計算の対象とする払込保険料総額から控除して取扱います。
- ※ 契約日（増額日）から 10 年未満で一般勘定で運用する定額年金へ変更した場合には、契約日（増額日）からの経過年数に応じた解約控除がかかります。

<解約控除率>

契約日（増額日） からの経過年数	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 4年未満	4年以上 5年未満	5年以上 6年未満	6年以上 7年未満	7年以上 8年未満	8年以上 9年未満	9年以上 10年未満	10年以上
解約控除対象額に 対する解約控除率	4%	4%	4%	3%	3%	3%	2%	2%	1%	1%	0%

一般勘定で運用する年金支払期間中にご負担いただく費用

下記の年金管理費を年金支払開始日以後ご負担いただきます。（遺族年金支払特約による年金も含みます。）

項 目	費 用	時 期
年金管理費	年金額に対して 1 %	年金支払開始日以後、年金支払日に責任準備金から控除します。

※ 上記費用は上限です。なお、年金支払開始日時点の費用を年金支払期間を通じて適用します。

バランスA(25)VA1(適格機関投資家専用)

2026年7月31日現在



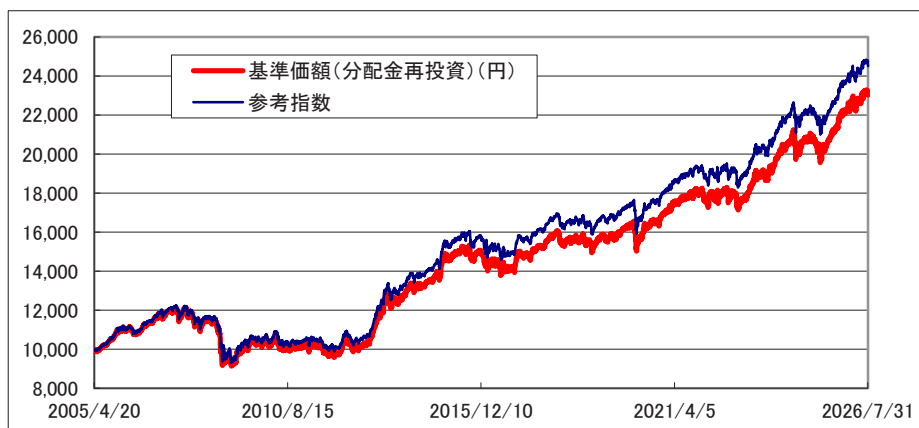
① 当月末基準価額

基準価額	既払分配金(税引前)	純資産総額
22,955 円	40 円	3,523 百万円

【マザーファンドの純資産総額】

国内株式	国内債券	外国株式	外国債券
1,003,087 百万円	765,846 百万円	1,165,901 百万円	535,108 百万円

② 当ファンドの運用状況



(単位: %)

【騰落率】

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
当ファンド	-0.78	1.26	3.43	9.42	21.58	130.24
参考指数	-1.04	0.93	3.38	8.98	21.27	145.04
差	0.26	0.33	0.05	0.43	0.30	-14.80

【資産構成比と基準価額騰落貢献度(月次)】

(単位: %)

資産	月末時価 構成比	基本 資産配分	差	基準価額 騰落貢献度
国内株式	15.5	15.0	0.5	0.03
国内債券 (短期金融資産込)	39.1	40.0	-0.9	-0.24
外国株式	10.7	10.0	0.7	-0.02
外国債券	34.7	35.0	-0.3	-0.57
その他	-	-	-	0.01
合計	100.0	100.0	-	-0.78

- (注1) グラフデータは設定日から基準日までを表示しています。また、基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- (注2) 参考指数は各組入資産のベンチマークを指数化したものに、その資産の基本資産配分を乗じたものの合計を、当初設定日を10,000として指数化した合成インデックスです。
- (注3) 騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- (注4) 「基準価額騰落貢献度」の「その他」は、信託報酬、基準比差異効果及び資金流入流出要因他です。
- (注5) 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

バランスD(35)VA1(適格機関投資家専用)

2026年7月31日現在

① 当月末基準価額

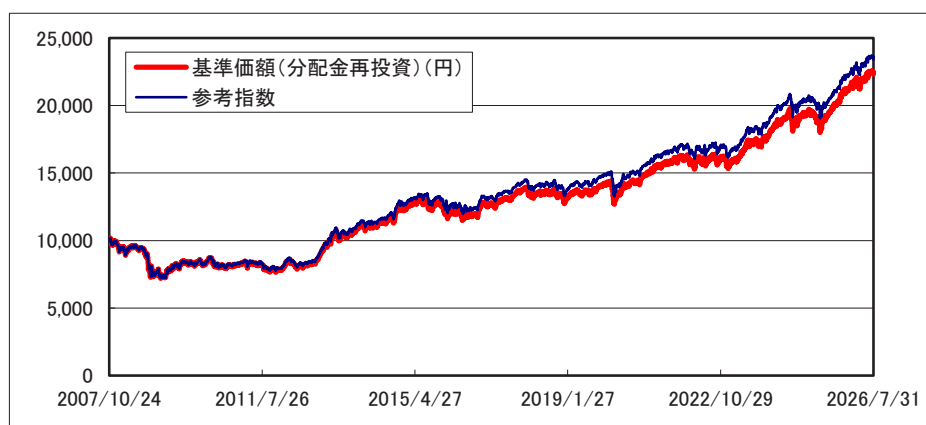


基準価額	既払分配金(税引前)	純資産総額
22,285 円	20 円	3,277 百万円

【マザーファンドの純資産総額】

国内株式	国内債券	外国株式	外国債券
1,003,087 百万円	765,846 百万円	1,165,901 百万円	535,108 百万円

② 当ファンドの運用状況



(単位: %)

【騰落率】

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
当ファンド	-0.67	1.93	4.51	12.27	29.29	123.20
参考指数	-0.89	1.67	4.65	12.05	28.60	133.85
差	0.22	0.27	-0.14	0.21	0.69	-10.65

【資産構成比と基準価額騰落貢献度(月次)】

(単位: %)

資産	月末時価 構成比	基本 資産配分	差	基準価額 騰落貢献度
国内株式	20.6	20.0	0.6	0.04
国内債券 (短期金融資産込)	34.0	35.0	-1.0	-0.21
外国株式	15.8	15.0	0.8	-0.03
外国債券	29.6	30.0	-0.4	-0.49
その他	-	-	-	0.01
合計	100.0	100.0	-	-0.67

- (注1) グラフデータは設定日から基準日までを表示しています。また、基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- (注2) 参考指数は各組入資産のベンチマークを指数化したものに、その資産の基本資産配分を乗じたものの合計を、当初設定日を10,000として指数化した合成インデックスです。
- (注3) 騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- (注4) 「基準価額騰落貢献度」の「その他」は、信託報酬、基準比差異効果及び資金流入要因他です。
- (注5) 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

バランスB(37.5)VA1(適格機関投資家専用)

2026年7月31日現在

① 当月末基準価額

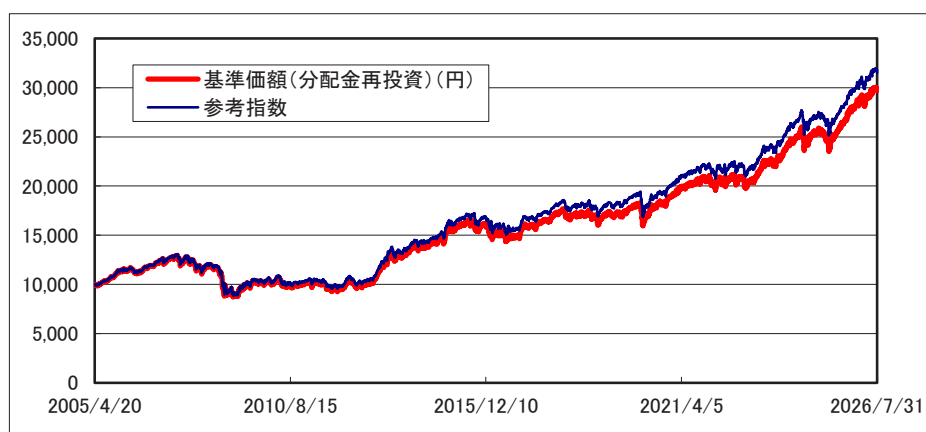


基準価額	既払分配金(税引前)	純資産総額
29,557 円	60 円	3,511 百万円

【マザーファンドの純資産総額】

国内株式	国内債券	外国株式	外国債券
1,003,087 百万円	765,846 百万円	1,165,901 百万円	535,108 百万円

② 当ファンドの運用状況



(単位: %)

【騰落率】

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
当ファンド	-0.69	2.11	5.11	13.69	32.54	196.86
参考指数	-0.93	1.84	5.14	13.36	32.33	214.91
差	0.24	0.28	-0.03	0.33	0.21	-18.05

【資産構成比と基準価額騰落貢献度(月次)】

(単位: %)

資産	月末時価 構成比	基本 資産配分	差	基準価額 騰落貢献度
国内株式	20.6	20.0	0.6	0.04
国内債券 (短期金融資産込)	29.0	30.0	-1.0	-0.18
外国株式	18.3	17.5	0.8	-0.03
外国債券	32.1	32.5	-0.4	-0.53
その他	-	-	-	0.01
合計	100.0	100.0	-	-0.69

- (注1) グラフデータは設定日から基準日までを表示しています。また、基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- (注2) 参考指数は各組入資産のベンチマークを指数化したものに、その資産の基本資産配分を乗じたものの合計を、当初設定日を10,000として指数化した合成インデックスです。
- (注3) 騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- (注4) 「基準価額騰落貢献度」の「その他」は、信託報酬、基準比差異効果及び資金流入要因他です。
- (注5) 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

バランスC(50)VA1(適格機関投資家専用)

2026年7月31日現在

① 当月末基準価額

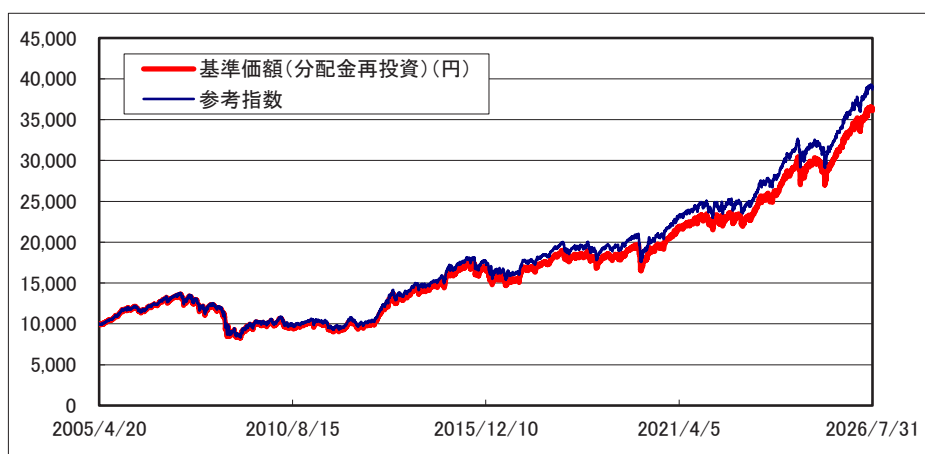


基準価額	既払分配金(税引前)	純資産総額
35,963 円	60 円	20,868 百万円

【マザーファンドの純資産総額】

国内株式	国内債券	外国株式	外国債券
1,003,087 百万円	765,846 百万円	1,165,901 百万円	535,108 百万円

② 当ファンドの運用状況



(単位: %)

【騰落率】

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
当ファンド	-0.54	2.91	6.53	17.10	41.78	261.16
参考指数	-0.73	2.73	6.63	16.97	41.70	287.08
差	0.19	0.18	-0.10	0.12	0.07	-25.92

【資産構成比と基準価額騰落貢献度(月次)】

(単位: %)

資産	月末時価 構成比	基本 資産配分	差	基準価額 騰落貢献度
国内株式	25.6	25.0	0.6	0.05
国内債券 (短期金融資産込)	23.9	25.0	-1.1	-0.15
外国株式	25.7	25.0	0.7	-0.05
外国債券	24.8	25.0	-0.2	-0.41
その他	-	-	-	0.00
合計	100.0	100.0	-	-0.54

- (注1) グラフデータは設定日から基準日までを表示しています。また、基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- (注2) 参考指数は各組入資産のベンチマークを指数化したものに、その資産の基本資産配分を乗じたものの合計を、当初設定日を10,000として指数化した合成インデックスです。
- (注3) 騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- (注4) 「基準価額騰落貢献度」の「その他」は、信託報酬、基準比差異効果及び資金流入要因他です。
- (注5) 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

特別勘定の名称：バランスA(25),B(37.5),C(50)

Sweet & Sweet STB

バランスA(25)VA1,B(37.5)VA1,C(50)VA1のマザーファンド

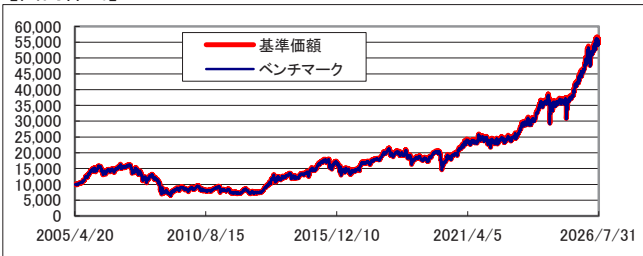
バランスA(25)VA1(適格機関投資家専用)、バランスB(37.5)VA1(適格機関投資家専用)、
 バランスC(50)VA1(適格機関投資家専用) 共通

2026年7月31日現在

三井住友トラスト・アセットマネジメント

③ 資産(マザーファンド)毎の運用状況

【国内株式】



<騰落率>

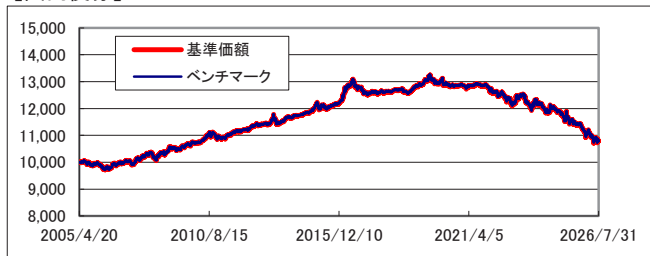
(単位:%)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	0.21	7.57	13.56	39.16	84.95	336.48
ベンチマーク	0.22	7.59	13.57	39.16	84.94	330.05
差	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	0.00	6.43

<市場の動き>

国内株式市場は月間でほぼ横ばいでした。月前半は、海外市場でハイテク株が乱高下するなか、国内市場でもハイテク株が値動きの荒い展開となる一方で、内需株や割安株が買われ、上昇しました。月後半は、中東情勢の悪化による原油価格の上昇を受けたインフレへの警戒感から世界的にハイテク株が売られるなか、国内市場でも関連銘柄が大幅に下落しました。その後、月末にかけて米国とイランの戦闘停止や日米ハイテク企業的好決算を受けてハイテク株が反発しました。月間ではTOPIXがほぼ横ばいとなった一方で、ハイテク株比率の高い日経平均株価は大幅な下落となりました。

【国内債券】



<騰落率>

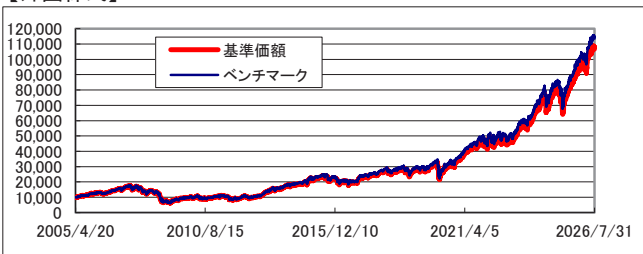
(単位:%)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	-0.59	-1.12	-2.16	-5.90	-12.37	18.25
ベンチマーク	-0.60	-1.12	-2.16	-5.89	-12.36	18.68
差	0.01	0.00	0.00	-0.01	-0.01	-0.43

<市場の動き>

国内債券市場では10年国債利回りが2.790%に上昇(価格は下落)しました。月前半は、政府が6月末に発表した「骨太の方針2026」(経済財政運営と改革の基本方針2026)の原案を受けて、財政運営に対する懸念が高まりました。また、日銀による適切な金融政策対応に遅れが出るビハインド・ザ・カーブの懸念に加え、原油価格の上昇や円安進行を背景とした輸入インフレへの警戒感も利回りの上昇圧力となりました。中旬には、「骨太の方針2026」が一部修正されたことで、過度なビハインド・ザ・カーブ懸念が後退し、また、政府関係者が公的年金による国内金融資産の投資拡大を促す施策の可能性に言及したことも債券需給の改善期待の材料となり、利回りは低下しました。下旬にかけては、米国とイランを巡る緊張の高まりを背景に原油価格が上昇し、世界的なインフレ懸念が再燃したことや、政府の財政運営に対する警戒感が改めて意識されたことなどから、利回りは再び上昇基調となりました。

【外国株式】



<騰落率>

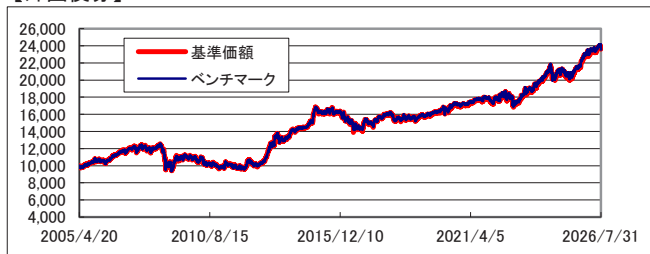
(単位:%)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	-0.19	5.35	11.79	27.97	88.81	879.44
ベンチマーク	-0.22	5.35	11.95	28.11	90.11	975.71
差	0.03	0.00	-0.15	-0.14	-1.30	-96.27

<市場の動き>

米国株式市場は月間でほぼ横ばいでした。月前半は、AI(人工知能)・半導体関連株が大幅に下落したものの、6月の米雇用統計が市場予想を下回ったほか、中旬に発表された物価指標の伸び率が相次いで前月比でマイナスに転じたことを受けて、早期利上げ観測が後退したことを背景に上昇しました。月後半は、中東情勢の悪化を受けて原油価格が上昇し、インフレ再燃への懸念が高まり、長期金利が上昇したことから、ハイテク株を中心に下落しました。月末にかけては大手ハイテク企業的好決算を受けて反発しました。欧州株式市場は上昇しました。月前半は、米早期利上げ観測の後退を受けて主要株価指数が上昇しました。その後、中東情勢の緊迫化や世界的なハイテク株の下落が重石となりましたが、ECB(欧州中央銀行)理事会で政策金利が据え置かれたことや、主要企業的好決算を背景に上昇しました。

【外国債券】



<騰落率>

(単位:%)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	-1.62	0.03	3.11	10.74	27.10	311.41
ベンチマーク	-2.32	-0.80	2.76	9.89	26.66	315.57
差	0.69	0.83	0.36	0.85	0.45	-4.16

<市場の動き>

米国10年国債利回りは、4.735%に上昇(価格は下落)しました。米国とイランの軍事衝突などを背景に原油価格が改めて水準を切り上げたことなどが、インフレ懸念の再燃につながり、利回りの上昇要因となりました。FOMC(米連邦公開市場委員会)やウォッシュントンFRB(米連邦準備理事会)議長の記者会見で、早期利上げに向けた強い姿勢が示されなかったと受け止められたことから、利回りが低下する場面もありましたが、インフレに対する警戒感が改めて強まり、上昇しました。ドイツ10年国債利回りは、3.206%に上昇しました。原油価格の上昇を受けてインフレ圧力の根強さが再認識されたことが利回りの上昇につながりました。また、財政支出の拡大観測やECB(欧州中央銀行)による早期利上げ姿勢に対する警戒感も利回りの上昇要因となりました。

<各資産のベンチマーク(グラフはバランスA(25)VA1、B(37.5)VA1、C(50)VA1の当初設定日を10,000として指数化し、設定日から基準日までを表示)>

国内株式 TOPIX(東証株価指数)(配当込み)
 国内債券 NOMURA-BPI 総合

外国株式 MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)
 外国債券 FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

バランスD(35)VA1のマザーファンド

バランスD(35)VA1(適格機関投資家専用)

2026年7月31日現在



③ 資産(マザーファンド)毎の運用状況

【国内株式】



<騰落率>

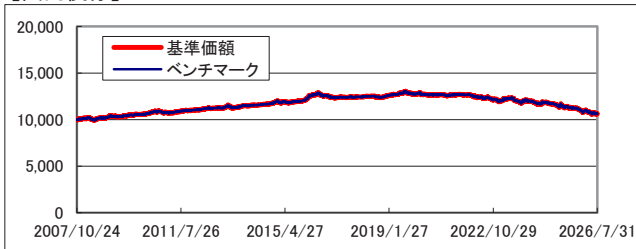
(単位:%)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	0.21	7.57	13.56	39.16	84.95	336.48
ベンチマーク	0.22	7.59	13.57	39.16	84.94	330.05
差	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	0.00	6.43

<市場の動き>

国内株式市場は月間でほぼ横ばいでした。月前半は、海外市場でハイテク株が乱高下するなか、国内市場でもハイテク株が値動きの荒い展開となる一方で、内需株や割安株が買われ、上昇しました。月後半は、中東情勢の悪化による原油価格の上昇を受けたインフレへの警戒感から世界的にハイテク株が売られるなか、国内市場でも関連銘柄が大幅に下落しました。その後、月末にかけて米国とイランの戦闘停止や日米ハイテク企業的好決算を受けてハイテク株が反発しました。月間ではTOPIXがほぼ横ばいとなった一方で、ハイテク株比率の高い日経平均株価は大幅な下落となりました。

【国内債券】



<騰落率>

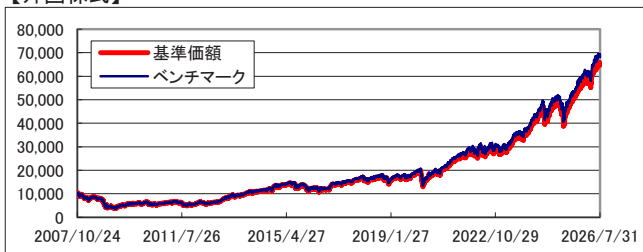
(単位:%)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	-0.59	-1.12	-2.16	-5.90	-12.37	18.25
ベンチマーク	-0.60	-1.12	-2.16	-5.89	-12.36	18.68
差	0.01	0.00	0.00	-0.01	-0.01	-0.43

<市場の動き>

国内債券市場では10年国債利回りが2.790%に上昇(価格は下落)しました。月前半は、政府が6月末に発表した「骨太の方針2026」(経済財政運営と改革の基本方針2026)の原案を受けて、財政運営に対する懸念が高まりました。また、日銀による適切な金融政策対応に遅れが出るビハインド・ザ・カーブの懸念に加え、原油価格の上昇や円安進行を背景とした輸入インフレへの警戒感も利回りの上昇圧力となりました。中旬には、「骨太の方針2026」が一部修正されたことで、過度なビハインド・ザ・カーブ懸念が後退し、また、政府関係者が公的年金による国内金融資産の投資拡大を促す施策の可能性に言及したことも債券需給の改善期待の材料となり、利回りは低下しました。下旬にかけては、米国とイランを巡る緊張の高まりを背景に原油価格が上昇し、世界的なインフレ懸念が再燃したことや、政府の財政運営に対する警戒感が改めて意識されたことなどから、利回りは再び上昇基調となりました。

【外国株式】



<騰落率>

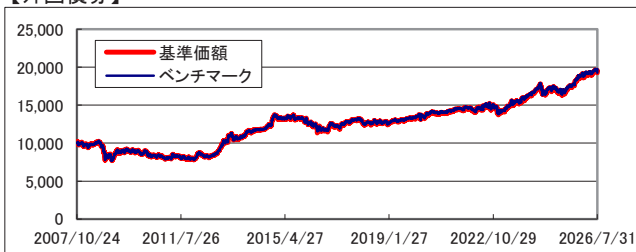
(単位:%)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	-0.19	5.35	11.79	27.97	88.81	879.44
ベンチマーク	-0.22	5.35	11.95	28.11	90.11	975.71
差	0.03	0.00	-0.15	-0.14	-1.30	-96.27

<市場の動き>

米国株式市場は月間でほぼ横ばいでした。月前半は、AI(人工知能)・半導体関連株が大幅に下落したものの、6月の米雇用統計が市場予想を下回ったほか、中旬に発表された物価指標の伸び率が相次いで前月比でマイナスに転じたことを受けて、早期利上げ観測が後退したことを背景に上昇しました。月後半は、中東情勢の悪化を受けて原油価格が上昇し、インフレ再燃への懸念が高まり、長期金利が上昇したことから、ハイテク株を中心に下落しました。月末にかけては大手ハイテク企業的好決算を受けて反発しました。欧州株式市場は上昇しました。月前半は、米早期利上げ観測の後退を受けて主要株価指数が上昇しました。その後、中東情勢の緊迫化や世界的なハイテク株の下落が重石となりましたが、ECB(欧州中央銀行)理事会で政策金利が据え置かれたことや、主要企業的好決算を背景に上昇しました。

【外国債券】



<騰落率>

(単位:%)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	-1.62	0.03	3.11	10.74	27.10	311.41
ベンチマーク	-2.32	-0.80	2.76	9.89	26.66	315.57
差	0.69	0.83	0.36	0.85	0.45	-4.16

<市場の動き>

米国10年国債利回りは、4.735%に上昇(価格は下落)しました。米国とイランの軍事衝突などを背景に原油価格が改めて水準を切り上げたことなどが、インフレ懸念の再燃につながり、利回りの上昇要因となりました。FOMC(米連邦公開市場委員会)やウォーシュFRB(米連邦準備理事会)議長の記者会見で、早期利上げに向けた強い姿勢が示されなかったと受け止められたことから、利回りが低下する場面もありましたが、インフレに対する警戒感が改めて強まり、上昇しました。ドイツ10年国債利回りは、3.206%に上昇しました。原油価格の上昇を受けてインフレ圧力の根強さが再認識されたことが利回りの上昇につながりました。また、財政支出の拡大観測やECB(欧州中央銀行)による早期利上げ姿勢に対する警戒感も利回りの上昇要因となりました。

<各資産のベンチマーク(グラフはバランスD(35)VA1の当初設定日を10,000として指数化し、設定日から基準日までを表示)>

国内株式 TOPIX(東証株価指数)(配当込み)
国内債券 NOMURA-BPI 総合

外国株式 MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)
外国債券 FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。



<参考情報>

マザーファンドの状況 2026年7月31日

【国内株式】

マザーファンド名：国内株式インデックス マザーファンド

◆株式組入上位10銘柄(対株式資産比率)

銘柄数：1,626

順位	銘柄名	業種	比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.98%
2	トヨタ自動車	輸送用機器	2.70%
3	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.62%
4	日立製作所	電気機器	2.40%
5	ソニーグループ	電気機器	2.27%
6	東京エレクトロン	電気機器	2.09%
7	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	2.01%
8	ソフトバンクグループ	情報・通信業	1.81%
9	アドバンテスト	電気機器	1.75%
10	三菱商事	卸売業	1.66%

◆株式組入上位10業種(対純資産比率)

順位	業種	比率
1	電気機器	20.62%
2	銀行業	12.18%
3	卸売業	7.36%
4	情報・通信業	6.13%
5	機械	5.88%
6	輸送用機器	5.05%
7	化学	4.44%
8	小売業	3.94%
9	サービス業	3.73%
10	保険業	3.64%

【外国株式】

マザーファンド名：外国株式インデックス マザーファンド

◆組入上位10銘柄(対株式資産比率)(円換算ベース)

銘柄数：1,116

順位	銘柄名	国名	比率
1	APPLE INC	米国	5.83%
2	NVIDIA CORP	米国	5.36%
3	MICROSOFT CORP	米国	3.79%
4	AMAZON.COM	米国	2.71%
5	ALPHABET INC-CL A	米国	2.31%
6	BROADCOM INC	米国	2.08%
7	ALPHABET INC-CL C	米国	1.84%
8	META PLATFORMS INC-CLASS A	米国	1.41%
9	MICRON TECHNOLOGY	米国	1.17%
10	JPMORGAN CHASE & CO	米国	1.12%

◆通貨別組入比率(対株式資産比率)(円換算ベース)

	通貨名	ファンド
1	米国ドル	76.68%
2	ユーロ	9.06%
3	英国ポンド	3.77%
4	カナダ・ドル	3.67%
5	スイス・フラン	2.48%
6	オーストラリア・ドル	1.74%
7	スウェーデン・クローナ	0.82%
8	香港ドル	0.46%
9	デンマーク・クローネ	0.45%
10	シンガポール・ドル	0.43%
11	イスラエル・シェケル	0.23%
12	ノルウェー・クローネ	0.17%
13	ニュージーランド・ドル	0.05%
14		

銘柄数にはREITを含みます。

【国内債券】

マザーファンド名：国内債券インデックス マザーファンド

◆公社債組入上位10銘柄(対純資産比率)

銘柄数：1,163

順位	銘柄名	クーポン(%)	比率	償還年月日
1	第183回利付国債(5年)	1.60%	1.01%	2030/12/20
2	第178回利付国債(5年)	1.00%	0.90%	2030/3/20
3	第352回利付国債(10年)	0.10%	0.90%	2028/9/20
4	第363回利付国債(10年)	0.10%	0.86%	2031/6/20
5	第374回利付国債(10年)	0.80%	0.85%	2034/3/20
6	第350回利付国債(10年)	0.10%	0.85%	2028/3/20
7	第359回利付国債(10年)	0.10%	0.85%	2030/6/20
8	第365回利付国債(10年)	0.10%	0.84%	2031/12/20
9	第366回利付国債(10年)	0.20%	0.83%	2032/3/20
10	第376回利付国債(10年)	0.90%	0.82%	2034/9/20

◆公社債種別構成比(対純資産比率)

	種別	比率
1	国債	85.07%
2	地方債	5.87%
3	事業債	6.21%
4	政府保証債	1.20%
5	MBS	0.97%
6	金融債	0.30%
7	円建外債	0.32%
8	ABS	0.01%
9	その他債券	0.00%
10	短期金融資産等	0.05%
	合計	100.00%

【外国債券】

マザーファンド名：外国債券インデックス マザーファンド

◆通貨別組入比率(対純資産比率)(円換算ベース)

銘柄数：1,034

	通貨名	比率
1	米国ドル	44.36%
2	ユーロ	28.22%
3	中国元	12.66%
4	英国ポンド	5.70%
5	カナダ・ドル	2.07%
6	オーストラリア・ドル	1.28%
7	韓国ウォン	0.97%
8	メキシコ・ペソ	0.86%
9	ポーランド・ズロチ	0.73%
10	マレーシア・リンギット	0.48%
11	イスラエル・シェケル	0.43%
12	シンガポール・ドル	0.36%
13	ニュージーランド・ドル	0.29%
14	デンマーク・クローネ	0.20%
15	スウェーデン・クローナ	0.18%
16	ノルウェー・クローネ	0.17%
17	日本・円(キャッシュ等含む)	1.04%
	合計	100.00%

募集代理店

引受保険会社

三井住友海上プライマリー生命保険株式会社

〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル

資料請求・お問い合わせ

フリーダイヤル 0120-125-104

<https://www.ms-primary.com>